

大塚化学株式会社殿徳島工場に、当社が受注しました高性能ポリマー TERPLUS®の新プラントが完成し4月17日に竣工式が行われました。

TERPLUS®とは、大塚化学株式会社殿が京都大学と共同開発された TERP 法という新規リビングラジカル重合法を用いた製造方法で生産される高性能ポリマーです。ラジカル重合法において、ラジカルと呼ばれる反応中間体は非常に不安定ですが、TERP 法を用いるとラジカルが安定して活性化を続け、分子の長さが揃ったポリマーや2種類のポリマーが均一に構成されたブロックポリマーを合成することが可能になるとお客様からお聞きしています。

TERPLUS®を使った製品用途には、顔料を溶媒中に均一に分散させた顔料分散剤や、短いポリマー（オリゴマー）を含まない粘着剤などがあり、それぞれ液晶ディスプレイのカラーフィルターやインクジェット、あるいは光学フィルムや電子材料用に使用されています。お客様では他にも光学分野やエネルギー分野に利用できる様々な高機能性ポリマーを開発されておられます。

当社のお客様から本プラントの FEED（Front End Engineering Design）及び EPC（Engineering Procurement & Construction）を2012年に受注しました。2013年4月18日に着工後、無事故無災害を貫徹し、当初スケジュールどおり約1年で竣工を果たしました。鉄骨4階建ての建屋内には多くの反応釜が設置されており、複数の種類の高機能性ポリマーを同時に効率よく製造することが出来ます。お客様がこれまで蓄積されてきたポリマー製造技術と長年ファインケミカルプラントの建設に携わってきた当社の技術やノウハウとのコラボレーションを通じ、TERP 法の能力が十分に発揮され高品質の製品を生み出せるプラントをお客様に提供できたのではないかと私たちは自負しています。

